

1398

74

203

# 基督教三綱領

基督降世一千八百九十四年 東京芝傳導會布教部出版

明治廿七年十一月 東京一二三館發兌

基督教三綱領目次

第一綱 神之部

① 獨一真神

② 天地之主宰

③ 真神之性質

第二綱 罪之部

① 人類之天父

② 天父之鴻恩

③ 人類之罪

④ 罪之比喻

⑤ 肉體と靈魂

⑥ 死之事



一丁

八丁

十二丁

十六丁

十九丁

二十六丁

二十九丁

三十二丁

三十五丁

④ 死後之審判 三十八丁  
 ⑤ 地獄之事 四十二丁

第三網 救之部

① 耶蘇之降生 四十八丁  
 ② 十字架之贖罪 五十三丁  
 ③ 贖之比喻 六十丁  
 ④ 信仰之事 六十七丁  
 ⑤ 天國之事 七十二丁

基督教三綱領

第一網 神之部

① 獨一眞神

世の中の人々が神を名けて信仰するものは甚だ多くして我日本の如きは昔より神國と迄唱へたる位にて神の数は特に夥多く既に八百萬の神々ありと迄云ひなす程に至れりさりとしてよもや八百萬の神々が現に在らずと申す譯にはあらざるべけれどこはたゞ神の数の多きを示したる者あらん何れにもせよ我國に神の数の多きとは我等が皆能く承知して居るとなるが獨り日本のみならず支那天竺其他耶蘇教の未だ開けざる國々に於ては我國と同じく數多の神を祭りて是を拜むとあれども如斯く多くの神々を信仰するに至く人間の罪と迷より起りたる者にて空に一つの太陽ありて徧なく全地球を照らすが如く天に獨りの眞神在りて萬國萬民を支配し給ふ者ありされば何れの國の歴

史を見てもろの太古に溯る時は大抵皆獨りの眞神を信仰して之に事  
へし様子あるが漸々年を重ねて次第に太古に遠るに従ふ只獨の眞神  
ありて天地萬物を治め給ふの道理を忘れ様々なるの迷の考を起して  
神にもあらぬ日月星辰人間禽獸昆虫草木の類に至る迄少く異なる所  
あれば直に是を祭りて神と拜むに至りしなり如斯くに神ならぬ多く  
の者を神と稱へて拜み祭るの迷の信仰に彌深入するに従ひて益眞之  
神様に遠りて後には全く此の眞神の在ますをすら忘るゝ様になりた  
るなりかく人々が太古に遠る程益眞神に遠りて神にもあらぬ者を神  
と唱へて拜む様に成り來りたる有様を極手近き所の譬を以て説明さ  
んに我國に於ても昔し天子様が自ら政事を聞き召されて日本全國を  
治め給ひし頃には國民擧りて只だ此獨りの大君を主君と仰ぎ奉りし  
により天子の御榮光は殘る限なく津々浦々迄も輝き渡りたり然るに  
其後世が段々と亂れかゝりて其處にも此處にも大名と申す者が出來

始めて各權威を振ふ様になりてより此小なる日本國も幾十幾百ヶ  
國に分れ其分れたる國々の民共は各其國の大名を主君と唱へて是の  
人に忠義を盡せば其れにて日本人民たる者の義務は十分なりと思ひ  
誤る様になれり夫故薩州人は島津公を君とあがめ肥後人は細川公に  
事へ備前は池田公を主とし長州土州其他の國々の人民は皆其大名方  
を眞の主君と仰ぎ是れに忠義を盡すとのみを思ふ者から京都の片隈  
に推込め奉りて在りし天皇陛下ころ眞日本全國の主君に在しにして  
凡て日本人民たる者は皆是の大君に事へて忠義を盡す可きとは殆ん  
ど全く忘却して天子とあれども無きが如きの有様にて其御榮光は全  
く地に墜て政事の實權は諸國の大名方の手に歸したるなり然れども  
天運循環漸く二三十年前の頃より入々皆迷の夢を醒まし天子の御威  
光の墜ちたるを憂へて彼の維新の大改革を行ひ日本全國の諸大名を  
廢し天子の榮光をして再び全土に普ねからしむるに至り始めて日本

人民たるものは多くの大名等に事ゆ可き者にあらず只此獨りの天皇陛下に事へ奉りて此君のみに忠義を盡す可きを覺れりさればかく政府に於て大改革を行つて數多の大名方を廢し只獨りの天子を日本全國の主君と仰ぐに至りし如く神の事にも早く御一新の大改革を行ふ神にもあらざる數多の偶像の神を廢し世界の人類皆擧て天地の間に只獨り在しなして萬國の民を守らせ給ふ眞神を信仰して是の御方に從ひ奉るは此の文明の世に於て最も適當なる改革ならずやされば人々彼地此地の神々を祭る替りに只獨りの御神に信仰を凝らすに由り信心も亦甚だ篤くなり安心喜悅も亦從つて増すとあらん今の日本人は餘り多くの神々を信するにより眞實に厚き信仰あるの輩は甚だ少くして多くは有名無實の偽信徒のみなり又此一新の譬に就て最も能く符合するとあり是迄我儕が別人種の如くに敬ひ尊んで事へたる諸國の大名も今にありて能く見れば皆我等と同じ日本天子の臣民

たるに過ぎざるなり又甚だ奇なる一事は其大名等の中にはよき人々も随分あれど多くは智慧も徳義も我輩より遙か劣りたる人物なりしにろを無上に敬ひ尊んで是れに臣とし事へたるの事なり全体馬鹿は大名社會は名物として世間の人が嘲けり來りし位のとにて芝居坏でも殿様方の役義を務むるは下手役者の受持なりと云々如斯き大名等を凡ての人が皆君とし主として崇め尊び其馬前に立て戦死するを無上榮譽となしたるは随分奇怪の話あれども今世間の人々が恐れ尊んで拜む所の神々の性質を質て見れば多くは我等と同様なる人間の死しる後を祭る者にて我國の神々には昔の英雄豪傑の士にして國家に大功ありし徒を祭りたる者甚だ多し彼の楠公清正の宮のごときは即ち是の類なり素より是等の人々も生世間は國の爲めに大功をたてたれども死したる後には最早何等の助けも得なさいる者どもなるに其を恃んで伊藤を斬るとは實に笑ふ可き甚しきにあらずや特に笑ふ可

六  
く又た耻づ可きは我等人間よりも遙かに劣りたる獸なんぞを狼様ど  
か伊稻荷様とか崇め祭りて畜生に頭をさげ又彼の日輪月輪の如きも  
眞神が我等の地球を照すために備へ給ひし大なる「ランプ」の如き者に  
して生も靈も無き者あるを恐尊んで是を拜み甚だしきに至りては水  
でも石でも草でも木でも見るもの毎に神と唱へて崇め祭るに至りし  
事あり斯くの如く人間より劣りたる畜生にまで頭を下げて事へる様  
になりたるものから智も力も衰微はてし西洋諸國に劣りたる今の姿  
にあり行けりされば諸君よ既に前にも申せし如く神の中にも早く御  
一新の大改革を執り行ひ數多の神々を信心する迷の雲霧を晴らし志  
を驕がへして天地萬物を支配して我等凡ての人類を守らせ給ふ只獨  
りの眞神を信仰して其教に従ふこそ誠に肝要の務ならまや

◎天地之主宰

眞神は始もなく終もなき全智全能の御方にて天地萬物の造物主なり

天とは大空に輝く日輪月輪其他諸の星々を指すなり地とは我等が住  
める此圓き地球を云ふ也万物とは地の上に在る人間禽獸昆虫草木金  
石土水空氣の類を纏めたる總名なり此等のものは始めよりして獨り  
自然にあるものにあらず始めは天もなく地もなく人もかく獸もなく  
其他一切のものも無かりしにたゞ眞の神のみ獨り空中に在まして此  
等凡てのものを造り出し給へり大工が家を造るには必き道具と材木  
を要するものにて如何なる名人と雖ども道具なく材木なきときは  
一つの小屋をも建るを能はざるなりされど眞の神が天地萬物を造り  
給ひしとて大工が家を建るととは大に異なり一つの道具も一本の材  
木も無く全く空の空ある者よりして今の複雑ある天地を造り給へり  
之れ人間の力には限あれども神の力は限り無きが故あり扱眞の神は  
吾々人間の親にして吾等は其子供なれば此世界は人類の住居のため  
に神より給はりし家の如きものなり恩愛の深き父親が其愛子に與ふ

る家には家具、食物、道具等、凡て渡世の爲に必要ある品物は皆能くどこのへて渡すが如く此世界に於ても吾々人間の爲に必要ある品物は一切備はり少しの不足も覺ゆるるなり人の此世に生るゝや必ず先づ要するものは、身を養ふ爲めの食物なれば神は豫め其備をなして穀物の類より野菜、菓物、鳥獸に至るまで幾千万の數知れざる程に種々様々な美味を含みたる食物を吾等に與へ給へり又人間は狐狸の如くにして野山の穴や岩室の内に住居をなすと能はざるに由り多くの木石を與へて家を建て、屋根を葺き、壘を敷き其内に寐起して雨露の難を避けさせ給ふなりまた人は生ながらにして獸の如く毛皮あるものにあらずれば寒暑を防ぐ爲綿絹麻リントルの類を以て春夏秋冬其度に適する所の衣服の用に供へ給へり其他山には金銀銅鐵の如き物ありて身の飾りにも亦世渡の道具ともなり飲む爲には水を與へ吸ふためには空氣を與へ視るには花の美あり聽には鳥の啼あり或は時々雨を降

らし地を潤して草木の生長を助け又折々は風を吹かして空氣の腐敗を清め給ふが如き千變万化の働をなして吾々人類を守らせ給ふなり又晝は太陽の光を賜て吾々人類が各世渡の業を營むの助ともし夜は身を休め精神を養ふ爲に安眠の助とある可き黑暗を與へ春夏秋冬四時の循環ありて春は長閑にして草木皆を芽を出し夏は暖かにして葉を繁らし實を結び秋は冷しくして能く實を熟し冬に至りて草は朽れ木葉は落て再び來春の備をなすが如き一年三百六十日に千種万別の變化あるは皆之れ眞神の妙手に由りて成るものにて一つも吾々の幸福とならざるものは無きなり此の如く眞神は只に天地の造物主たるのみならず又恩愛深き吾々が天父なるにより凡て此神に従ふ者は神の愛子と唱へられ此世に於ても幸に日を送り又未來に往ては永遠の樂ある天國に入りて悦ぶを得るものなり

◎眞神之性質

眞神は人の手を以て作りたる家の隅の神棚や山の上に建られたる社の如きもの、内に在さず普く天地の間に満亘り所として在さるる家き渉方なり故に耶蘇教の方では別に神の宮をも建てずまた信者の家に神棚の如きものを設けず祈りをなすときは山の上でも家の内でも己れの居る所の場所に於て直に拜伏し心の内に誠を盡し思を凝して念するに由り在さる無き眞神は其所にも渉降りありて凡ての祈りを聞上げ給ふなり又天地の間に眞神の在さる所なきに由り縦令ひ我等が暗黒の内にて竊ある部屋に入り誰れも知らざる様にして惡事をなすとも神は我儕と共に其所にも在して凡てのこのを見給ふなり又た此のみならず我儕の心の内に起る種々様々なる惡き思ひも人は知ねど神の前にて隠るゝと能はざるなり夫故に人の心は神の前に於て圓裸躰にて少しも覆ふこと能はずと申すなりたゞ神棚の前に座るか渉宮の前に立つときのみ俄に信仰の心を起し其所を離れて

他所に行けば神も佛も知らざる様に思ひの儘に惡事を企て少しも憚る所無き迷ひの信仰とは大に異なり在さる所なき眞神を信するものは何を爲すにも思ふにも凡ての事をみお神様の目前にて爲すの感あるものありさて此神様は我儕の目をもて視る可らず手をもて觸る可らざる形の見へざる渉方あれば渉札を飾り木像などを彫み立て、祭る可きものにあらずと心と誠を盡して拜む可きものなり聖書の中にも神は靈なれば拜するものも靈と眞をもて拜す可しとあるが如し然れども世の中には渉札や木像の如きものを拜み慣れたる人甚だ多くして目にも見へず手にも觸れざる眞神が天地の間に満亘りて我儕を守せ給ふとの話は餘り空なる事にして之れを信心する杯と申すとて迎も出來難き者の様に思ひあす事あるべし由て今此形なき眞神を信するとの決して空ならざる道理を手近きもれに譬へて説示すべし我儕人間の躰の内には心と申すものゝあるとは誰もよく承知



の事なるか此心は目にも見へず手にも觸れざるものにして色もなく形も無ければ全身に滿亘りて手足目口を使ふ身體の主人なるものなり斯く心は目にも見へず手にも觸れざるものなれども誰も之を空なる話と看做て受取り難きの既ありと言ふものなし然れども人或は言はん成程心は目にも見へざる無形のものなれども之が身體の内にあるを信じて疑はざるものは其手足目口を使ふの働を見るを得るに由てなりと此道理は能く無形なる眞神に在すとを悟るに最も適當なるものあり神も心と色も形もなきものなれども其天地の間に滿亘りて萬物を支配し給ふとを信じて疑はざるものは即ち此神の働が目をもて見る可く手をもて觸る可き天地萬物の上に顯はれたるに由てなり前にも申せし如く春夏秋冬四時の循環ありて千種万別の働あるは我情の眼に最も見易きものなるが此働は決して外より來るものにわらず即ち形なき眞神の御工にして心が手足を使ふと少しも異

ある所なきなりされを耳目鼻口兩手二足の働を見て體の内は心のありを信じ得るものは天地の中に呈はれたる千變万化の働を見て無形の眞神の存在を悟り得べきものなり

第二綱 罪之部

① 人類之天父

現今の全世界の人口を儘かに知るを能はざれども凡そ十四五億も有る様に聞き及べり十五億と申せ我日本國中の人間の數を四十倍したる程の多人數あり然れども人間の數は年々に殖へ行くの理合なれば昔よりして此様に多人數ありし筈はなし數千年の昔に於ては世界中の人口も定めて小數なりしならんが此理を推して其大源に溯れば人類の太初の先祖は只一男一女なりしなるべし聖書によりて始めの先祖の名を尋ぬるにその男をアダムと云ひ女をエバと申す也現今全世界に居る十五億の人間は皆此のアダムとエバの苗裔なり夫故に西

洋人でも日本人でも唐人でも天竺人でも素を質せば同じ血脈の親族にて四海皆兄弟たるありさて今の人間は皆父母によりて生まるゝ者なれども此アダムとエバのみ彼等を生たる父母あきにより此二人のみは眞神が直きに手づから造り給ひしものあり夫より後の人間は神が手づから造り給ふにあらざりて皆父母によりて生れ来るものなれども是また全く神の滂手を離れ父母の力のみによりて生れる者にあらざるなり父母は子を生めども子を造るの力あし是を造るものは只神あるのみ時計を作りたる時計師は已が作りし時計の仕掛は能く承知して居るなり然るに世の父母は已れが生む所の子供の身體の器械を知らざ骨が何本肉が何程肺臓心臓等は何處にあるや一切是を知らざるなり是等の事は學問の力によりて後に漸く知る者あり又生れぬ前には其胎内にあるものは男子か女子か醜婦か美人か才子か愚人か是等を知るの力あし又只是のみならず子供を生るゝ期と數とは父母

の自由にあるものからねば子を好むの親にして一人の子をも擧げざる者あり是等によりて考ふれば現今に於ても人間の生るゝとは全く神の能による者にて父母は只其道具とありて子を生むのみ故に眞神は我等人類の眞の天の父上なり此天父の天國に在すを知らざ又其力によりて世に生れ來りし道理を覺らざる人々は親を知らざる憐むべきの孤子あり否眞の親の恩を知らざる不孝の罪人と云ふべきものなり

◎天父之鴻恩

世の中には己れ獨りの力によりて此世に生存へて居る様ある考を持つ人甚だ少からざれば斯の如き人々に向ふて我等はみな眞神の御蔭に由りて此世に生活ゆる者なるを話せば乍ち眼を怒らしては心得ぬ事を聞くものかな拙者は拙者が智慧の力と腕の力に由り我が身は素より家内子供に至る迄皆よく養育て、未だ他人の厄介となりた

る覺ゆるもなければ況して是迄聞もせず信玄もせざりし具神の御厄介  
になりたるをば露程もなひと思ふに如何なる譯に由り其神様の御蔭  
を被りて居るとは申さるゝや甚だ合点の行ぬ御話なりと理屈らしき  
議論をなす人あれども今少しの間氣を静めて是より余が説き解くる  
所の道理を聞かば必らず其疑を晴らすを得べし抑も人間の此世に生  
まるゝは已れ獨りの考へに由りて來りしものにあらず皆具神の命令  
に由りて送られたる者なり誰れか已れの生まるゝ前に我は是より  
界に行きて男と生れ女とならんと云ふて京大坂へ旅立する様ある理  
屈に預て先自ら其考を定めて此世に生れしものありしや我等は未だ  
無感覺にてありし時に早既に此世に生み出されたる者にあらずや又  
我等の靈も胎も兩ら神様の御手あよりて成りたるものなれば彼の人  
々の誇る所の智慧の力も腕の力も我と我が手を以て得たるものに  
らるゝ是亦具神の賜ありされば此神様の賜なる智慧と力を働かし金を

儲けて妻子を養ふ人間が我は已れの力によりて世渡りする者なり神  
の御厄介には少しもなりし覺ゆる無しとて虚誇りをするは丁度親より  
譲り受けたる本金を以て商賣にかゝり多くの金を儲けたる子供が親  
の恩を全く忘れて我れは我が手で金を儲けて渡世するなり親の恩義  
は夢にも知らずと申すに少しも異あるを無し只是のみあらる其の  
智慧と力を働かして集むる所の食物衣服家具道具に至るまで凡そ人  
間の生活に必要品は一として具神の力に由りて出來たるもの無し譬  
へば米はみな百姓の手に由りて出來る者の様に云ひおせども實は一  
粒の米にても百姓の力のみにて出來たるを無し如何となれば米の出  
來る爲めには三つの大切ある者あり即ち土と水と太陽是なり如何に  
百姓が勞るゝも具神が太陽の熱と光を與へず水と土との力を借し給  
はずば只一本の稻だも生長するを能はざるなり其他の者も米と同じ  
道理にして皆神の力に由る者あれば是等を使ふて生活する人間が神

の御恩に由らずして世渡するもすは餘り無分別なる言葉からせや  
又或人が申すには若し凡ての物を神様より無代價にて戴くならば其  
御恩を蒙るるありと云ふことは當然なれども拙者の如きは何も神よ  
り價をなしに貰ふたこと無く食物でも衣服でも皆夫々に相當なる價を  
出して求むる故に別段神の御恩を蒙りたる者と云ふべからずと是  
れ亦甚だしき了簡達なり今此に一つの例を擧げて其誤りあるを示さ  
ん彼の肴屋が持ち來る所の鯛一頭は價三十錢ならん扱て此三十錢の  
金は鯛一頭の相當なる價と思ふや決して否らず此三十錢は鯛の眞の  
價にあらずして唯海中に舟を浮べ網を下して是れを取り魚屋まで携  
へ來りし漁者の手間賃と其魚屋が籠を擔いで市中を彼地此所と徘徊  
する其手数料との金高なり此手数料の外には我等鯛の價とあし別に  
是を造りて海中に蓄へ置きたる眞神様に如何程の金を拂ふたるや僅  
かに此を取りたる手数料のみにてすら三十錢を要するとなれば此結

構なる魚を造り給へる眞神の御働には何程の金を以て報ゆれば足れ  
りと思ふ平されば我等が價を拂ふと申すはたゞに手間賃のみのとに  
して鯛の魚は神様より無代價にて頂戴する譯にはあらずや只鯛のみ  
ならず穀類、鳥獸、草木、綿絹、其他我等に必要な品の價は是を彼地此地  
に持ち運び彼れ此れと手を入れたる人々の手間賃丈にて決して其品  
物は眞の價あらずなるあり故に是等の必要ある品物は皆眞神様より  
我等人間に無代價にて唯賜はりたる恩惠の送物なるを明なり又彼の  
水の如きは人間に暫時も無くてならざる品物にて其功用の大あると  
他には類ひの無き程なれども此水ころは人の手間賃入らざる實に無  
代價にて神より澤山に賜はりたる物なれども人皆自由に是を汲み取り  
て各の用に供するにあらずや空氣の如きは人間の爲めに水よりも猶  
必要にして離れ難きの品なる故に所として此氣の満たざるはあく人  
皆無代價にて自由勝手に此氣を吸ふて生活するにあらずや斯の如く

我等飲食物食物みな神の力に由るものにて我等人間は一日と雖も神の守りと恵を蒙むらして此世に生活するを能はざればたゞ己れ一己の力のみにて此世に生存へ居るとすして神様の御恵を思はぬ人々は其罪實に軽らずと思ふあり此に至りて眞の神と人間との關係は君臣親子の譬を以て説明されぬ有様あるを覺るべし

◎ 人類の罪

眞神は我等人間の天の父上なれば此の神を敬ひ尊び常に其仰を守りて御旨に逆ふ行をなさざるは人間第一の義務あり聖書の中に爾ち力を盡して神を愛し己の如く他人を愛せよとあるは眞神の命令にて凡て世に住む人間が守るべきの義務あり罪とは此人間の本分を盡さずして神の命令に逆く事あり人間の罪の中にて最も重くして凡ての悪事の根本とある者は己れを造りし天父の在すに知らずして是に事へざりし不孝の罪なり此不孝の罪に續く諸々の罪は偽憎、謗、怨、妬、盜、姦、淫、嗜、嗜、人殺、驕、慢、誇、親、不、孝、怒、貪、侮、其、外、凡、て、己、れ、の、良、心、の、許、さ、ぬ、事、を、心、に、思、ひ、口、に、發、し、行、に、顯、は、す、と、等、あり、眞、の、神、は、義、さ、御、方、な、ら、ば、其、子、供、た、る、人、間、も、ま、た、常、に、義、さ、工、の、み、を、行、ふ、可、き、筈、な、り、是、れ、を、行、は、し、む、る、爲、に、眞、神、は、各、の、心、に、良、心、と、申、す、者、を、與、へ、給、へ、り、此、良、心、は、我、等、に、命、じ、て、善、事、を、勸、め、惡、事、を、止、め、善、を、爲、せ、む、我、等、を、贖、め、惡、を、爲、せ、ば、直、に、責、む、る、人、の、心、に、彫、み、附、れ、し、眞、神、の、命、令、あ、り、如、何、あ、る、無、學、文、盲、の、人、に、て、も、亦、惡、人、盜、賊、の、如、き、者、で、も、此、良、心、を、持、た、ざ、る、も、の、お、し、夫、故、誰、が、教、へ、ず、と、も、皆、生、れ、な、が、ら、に、し、て、善、の、な、す、べ、く、惡、の、な、す、べ、か、ら、ざ、る、と、を、知、る、も、の、な、り、人、の、物、を、盜、む、は、惡、事、に、し、て、貧、乏、人、を、救、ふ、の、善、さ、る、と、は、誰、れ、も、能、く、其、理、を、承、知、せ、ら、る、事、な、る、べ、し、若、し、人、々、が、生、れ、た、日、よ、り、死、ぬ、る、日、迄、に、只、一、度、も、此、良、心、の、命、令、に、逆、さ、た、る、思、ひ、も、言、ひ、行、も、な、か、り、し、お、ら、ば、稍、全、き、人、に、近、け、れ、ば、も、如、此、生、涯、の、間、凡、て、義、さ、行、の、み、を、な、し、て、此、世、を、渡、る、も、の、は、世、に、只、一、人、だ、も、あ、る、と、な、か、る、べ、し、行、に、は、左、程、過、ち、な

淫、嗜、嗜、人、殺、驕、慢、誇、親、不、孝、怒、貪、侮、其、外、凡、て、己、れ、の、良、心、の、許、さ、ぬ、事、を、心、に、思、ひ、口、に、發、し、行、に、顯、は、す、と、等、あり、眞、の、神、は、義、さ、御、方、な、ら、ば、其、子、供、た、る、人、間、も、ま、た、常、に、義、さ、工、の、み、を、行、ふ、可、き、筈、な、り、是、れ、を、行、は、し、む、る、爲、に、眞、神、は、各、の、心、に、良、心、と、申、す、者、を、與、へ、給、へ、り、此、良、心、は、我、等、に、命、じ、て、善、事、を、勸、め、惡、事、を、止、め、善、を、爲、せ、む、我、等、を、贖、め、惡、を、爲、せ、ば、直、に、責、む、る、人、の、心、に、彫、み、附、れ、し、眞、神、の、命、令、あ、り、如、何、あ、る、無、學、文、盲、の、人、に、て、も、亦、惡、人、盜、賊、の、如、き、者、で、も、此、良、心、を、持、た、ざ、る、も、の、お、し、夫、故、誰、が、教、へ、ず、と、も、皆、生、れ、な、が、ら、に、し、て、善、の、な、す、べ、く、惡、の、な、す、べ、か、ら、ざ、る、と、を、知、る、も、の、な、り、人、の、物、を、盜、む、は、惡、事、に、し、て、貧、乏、人、を、救、ふ、の、善、さ、る、と、は、誰、れ、も、能、く、其、理、を、承、知、せ、ら、る、事、な、る、べ、し、若、し、人、々、が、生、れ、た、日、よ、り、死、ぬ、る、日、迄、に、只、一、度、も、此、良、心、の、命、令、に、逆、さ、た、る、思、ひ、も、言、ひ、行、も、な、か、り、し、お、ら、ば、稍、全、き、人、に、近、け、れ、ば、も、如、此、生、涯、の、間、凡、て、義、さ、行、の、み、を、な、し、て、此、世、を、渡、る、も、の、は、世、に、只、一、人、だ、も、あ、る、と、な、か、る、べ、し、行、に、は、左、程、過、ち、な

き者にても其言と思を質して見るときは必き許多の罪あるを見出  
 すなり最も人間の罪を犯し易き場所は已の心の内なり言と行は能  
 く人に顯はるれども心の中は已れの外に誰れも之を知るものなく如  
 何なる朋友親兄弟にても其内情を知ると能はざるにより人皆な思ひ  
 の儘に少しも憚る所なくして心の中には罪を犯すものあり外部は立  
 派な人なれども心の中にて人の物を盗み人を憎み人を怒り又た思に  
 於て密通姦淫等の罪を犯す者は甚だ多からん夫故イエスの御言にも  
 凡る女を見て色情を起すものは心の中既に姦淫せりとあるなり人間  
 の心の中の不潔にして汚らはしきとの証據には誰れにても己れの手  
 足を人に見する事を左程に恥かしく思ふ者なれども各々の心の中  
 は譬ひ親子兄弟の間に於ても丸る明にて顯はすとは人々のなし能は  
 ざる所あり如何となれば人の心は親にも子にも話せぬ程耻べき悪事  
 の溜所なり斯く親兄弟に知られても耻入る程の腐心を丸る出しにし

て義しき神に見らるゝ時は嘸々苦しき思をなすとならんが眞の神は  
 全知全能の涉方なれば我等が心の隅々迄もよくく承知なるに由  
 り人には隠して包むを得るとも神の前には生れて以來犯し來りし  
 凡ての罪は皆顯はれて又覆ふを得ざるなり

④ 罪之比喩

人間の心は丁度鉢に汲みたる濁水の如き者なり濁水にても久しく鉢  
 に汲置き少しも動かさざれば其土悉く鉢の底に落ち沈まりて上部の  
 水はさながら清水の如く見ゆれどもも濁水のと成れば若し手を以  
 て其鉢を動かす時は底に沈める凡の土は皆を沸騰りて乍ち固の濁水  
 となるものなり人の心は固より清潔なる者にあらず全く汚れと罪に  
 満たされて甚だ濁れる者なれども何事も無き無事大平の時には罪は  
 皆心の底に沈まりて其上より眺る時は仲々立派な善男善女と思へ  
 どもそれは只上部の事のみにて一度情慾の手を以て動かすときは千種

万類の罪と汚は心の底より沸き出して今まで佛のやうなる柔和な面  
 でありし顔も乍ち青赤の筋を顯はし鬼の様なる面と變りて怒り出  
 す者も甚だ少しとせず如何なる放蕩無頼の壯者でも酒と女の手を假  
 らざれば眞面目の腐心を顯はさるなり又今譬を替へて此理を説か  
 らに彼の白赤黒三匹の小狗が如何にも睦じさうにして互ひに戯れ遊  
 ぶを見れば狗は實に朋友の情義を知りて能く人倫の道に叶へる賢獸  
 あるかと疑ふ程のをおれどもこは只暫の間のみ其の疑を解ん爲に只  
 一切の魚の骨を其真中に投げ込んか乍ち一大變動を生じて今迄賢獸  
 あらんと疑はれたる白赤黒の狗供は各牙を露はして咬みつ嚼まれたつ  
 虎狼の猛獸にも劣らぬ程の暴狗となるべし平素には兄弟とか朋友と  
 か申して如何にも睦じさうに見ゆれども金に親子の情なしとて僅か  
 なる金銭利慾の爲めには乍ち不和争論を引起し互に隣敵の思ふをな  
 すものは彼の三匹の小狗の喧嘩に異ある所おしと思はる全体人間の

罪は毎も平常外通に顯はれ出で、人々の目に立つものにあらざ無事  
 なる時は皆心底に落ち沈まりて居る者故に我は罪おしと誇る者も能  
 く其心の底を詮索する時は必ず己れの罪深きとを悟るべし如何なる  
 人にてても若し基督教の光を以て己れも人も未だ曾て窺はざりし心の  
 奥を光す時は汚と罪が山の如くに積み累り未來の審判を待つて我儕  
 を地獄に陥入れんとするを知るべし

④ 肉體と靈魂

人間と申す者は體と靈の二つに由て成立つ者なるが其の二つの者の  
 關係は丁度家と主人の如き者あり即ち體は靈の家にして靈は其の主  
 人なり故に凡て體に屬する所の耳目手足の如きは皆其主なる靈の命  
 に從て働くものなり靈が朋友に逢ひ度く思ふ時は其命を足に傳へて  
 己が志す所の家に連れ行かしめ物を取り度く思ふ時には手に命じて  
 好む所の品を握らしむ見たき時には目を使ひ聞き度き時には耳を使

ふが如し斯く云ふ拙者の説教も亦た之れ靈の働にして手と口とは其命に随ひて拙者の思想を他人に告ぐるの道具たるのみ親に分れて悲み子を産んで喜び朋友を愛し離するものを憎むが如きも皆な靈の工にして身体の働にあらざるなり實を申さば靈こそ眞の人間にして躰は其道具たるに過ぎず楠正成を忠義の士なりと申して世の人々が讚めたりゆるは彼の躰を賞むるにあらざ其内に住りて君を敬ひ民を愛したる忠義の靈を云ふものなり又彼れは善人なり是れは悪人と申して人の種類に多くの別ちをつくるも顔の美醜を見て云ふにあらす只其心の善悪によりて定める者にあらずや如此く靈が一身の主人にして躰は其道具たるに過ぎずとなせば靈の躰より尊きとは家の主が其家屋よりも大切なるが如きに異ならざるなり然るに世の中には往々此理を取違へて躰を己と思ものから中に靈のありて是が主たるを全く忘れたる者あり夫れ故躰の爲めには何を喰ひ何を飲まんと日

夜思を煩へども我靈の餓へ死するを願みず髪飾や衣服の爲めには多くの金を費やして厭はざるも靈には一錢の飾も付けず面の垢を落す爲めには糠や石鹼を携へて毎日湯屋に通へども我心の汚れたる罪の穢れを洗ひ落として靈を潔むるに力を用ひず躰に病われれば醫者よ薬よと喧ぎ立て一時も早く痊されんとを願へども我靈は罪の死病に取りつかれて早將に滅びんとするを覺らざる者甚だ多しかくも世の人々が智愚貴賤の別ち無く揃ふに揃つて道理の最も見易き者なる我靈と躰の軽さ重さを取り違へて全く迷ひれ道に落ち込みたるは彼の人類を惡道に陥れて不滅の苦を興ゆるを樂みとする惡魔の爲めに其目を昏まされて其心狂へるが爲あらん然ば早く迷の夢を醒して己の正氣に立ち歸らざれば如何に後悔するも最早及び難きの時節に逢ふ可し

⊗ 死之事



生るゝ者の必ず死するは眞神の定め給をし律法にて世の始先より以  
 來誰れ一人も此法を遁れたる者あらざるなり扱て此死ぬるとす事  
 に靈も軀も兩ながら全く消失すると云ふ意にあらす死するとは今迄  
 合軀にありて供に働たる靈と軀が二つに分れて各其出でし所に歸る  
 事なり人間の軀は機械の如き者あれば久しく用ゆる時は所々方々に  
 損所が出来て物の用に立たざる故年來靈の道具たりしも最早此務を  
 なすとの出来ざるにより靈は此道具を跡に残して己れは獨り眞神の  
 許に歸るなりされば跡に残されたる肉軀は美人の者でも醜婦の者で  
 も尊き汚方の骨なりしも賤しき乞食の肉でありしも皆な同じく固の  
 土に歸りては少しの隔も無きものなり又肉軀を離るゝ時は如何に寶  
 の山をなして世の樂みを極めたる富める人の靈にても只一錢の金一  
 枝の衣服をも携へ行くを能はざるべし如何に親しき親子夫婦の間で  
 も相伴ふて天國の旅連すると叶はざるべし其時に當り只携へて伴に

行く可き者は生涯の間我身に於て犯したる幾千萬の數の知れざる罪  
 と汚れの重荷のみなり此罪は前の段に於て精しく説き解けたる如く  
 我良心の命に逆きて思ひと言と行に於て眞神の命令を犯せし罪なり  
 凡ての罪は我が靈より起りたる者あれば靈が體と分るゝ時にも皆か  
 靈に屬し従ふて眞神の前に伴ひ出づ可きものなり生涯人の靈に於  
 て犯す所の罪は丁度身体に彫たる入墨の如き者にて只一点も消失す  
 ると無くみな昭々として靈の上に顯はれ眞神の前に立ちては如何に  
 隠さんと欲するとも隠すと能はざる者なりされば幾千萬の數の知れ  
 ざる親兄弟にも恥ぢて見せられぬ程の汚れたる罪も入墨をしたる人  
 間の靈が神様の前に立出る時は如何なる有様ならんか讀むもの能く  
 考へて見られよ又た己れの靈も一度は其の場に出づ可きものなれば  
 其の時の用意は既に整ふたるや深く自ら顧みられんとを希ふあり

⑦ 死後之審判

人死するときは其骸は腐敗れて固の土に歸り生ける時の形は全く消へ失する者あれども靈は骸と異ひて死後と雖も腐るゝとなく消ゆるとなく永遠生き存へて此世に在りし時よりも其の働は却て多く悲悦愛憎の感情も幾百倍の敏きを加ゆ可し靈も此世にある間は籠の中の鳥の如く思ひの儘に羽を翹げて飛ぶと叶はざれども肉骸に別れて未來に出れば籠を離れし鳥と齊く自由自在の働をなす者なり此時に至りて最も驚く可きとは己が生涯の間に行ふたる凡ての悪事を殘無く思ひ出すの一事ありされば此の世に居りし間には全たく忘れし罪と汚れも靈のみの來世に出れば皆悉く思ひ出して忘れ度くとも忘られず如何程悲み齒みするとも術なきの罪人たるを覺るべし是のみならず死したる後には貴きも賤きも皆同じく眞神の前に立己れが生涯身に犯したる罪の審判を蒙るべき也此期に臨めば凡ての人の靈は網に入りたる魚の如く如何程狂ふも今更眞神の淨手を離れて其場を遁

去ること能はず唯其義鞠に己れを任して地獄の刑罰を待つの外なきなり又此の神様は凡ての事を知ろし召す全能全智の淨方なるにより我等人間が生涯身に犯したる罪惡は我等よりも尙精しく一ツも殘らず存なれば審判の日には凡ての罪を皆悉く數へ擧げ其輕重多少に従て各の刑罰を定め給ふにより一點も罪なき人は天國に入りて永遠の幸福を受くる事を得可きも此の如く一點の罪を犯して天國に入る者は世に只一人もある事なし罪あるものは悉く地獄の底へ追ひ墜されて限りなきの苦痛に沈むべき此地獄に落入て天罰の苦痛に罹る者は永遠く其場を出る事能はざる故聖書の中に地獄を譬へて底なき穴と申されたり其意を問ふに一度び地獄に落入るときは益深入りして苦痛に苦痛を重ねるのみ底なき穴に落ちたる如く其苦痛を遁出るの道なきなりさて人間五十年の生涯は丁度旅路の如く暫時も同じ處に逗留する事能はず日々夜々に來世を指して行くものなれば吾等の世

渡は死刑に定められたる罪人供が處分の場所に趣く所の道中にて酒や女に戯れ遊び耳目鼻口の樂みするも只暫の間のみ却て是等の地獄の猛火を補くる爲めに薪を積むの用意なりかく我等人間は來世に至て眞神の臺前に引据られて嚴事ある義鞠に預りて地獄の刑罰を蒙るべきの罪人にて此世渡は其苦痛の極度に達する苦の道たるを知らせ悪魔の麻薬に昏まされ罪の熱氣に浮されて神も鞠さもあるものか此世のみにて來世はあしと自ら欺き人を惑はし飲めよ食へよ舞ひ歌ひ酒や女と狂ひ出して只肉體の情慾のみを遂げんと欲し只だ浮世の樂のみを貪る人は豈實に憐むべきの至りならせや

④ 地獄之事

地獄とは此地の底にある獄屋と申す義にあらせ地の底には素より如此き獄屋あるの道理あし又愚婦愚夫の信する如く青鬼赤鬼の如き者ありて飢の山や血の池あとの苦みある場所にもあらず地獄とは凡て

の罪人の靈が來世に於て神の嚴罰を蒙り永遠の苦痛を受くる所にし  
て素より我等が肉體の目を以て見るべき所に非ざるなり又地獄は刑罰と申すは如何なる事か神は如何なる仕方をして罪人の靈を罰し給ふか聖書の中に明言あければ神より蒙むる直接の罰に附ては精しく説明する事能はされども耶穌の言に消ざる火にて其の身を焼るゝ如きの苦なりと申されたれば其苦痛の大なる事察し得て餘あるべし或人此事に疑を起してすすに來世に於ての只靈のみにて肉體なければ何に因て苦む事を得るや軀を離れたる靈にも苦を覺ゆるの力あるやと是を誠に奇妙を問と云ふ可きか前にも説たる如く悲と云ひ苦と云ひ皆靈の働きにかゝる者にて若し靈なければ如何程軀を焼くとも突くとも少しの苦を覺ゆるべし靈の出たる後の死軀は木石と異なるもなくして何の感覺をも持たざる者なり又親の死したる報知を聞て甚だ悲み憂に沈んで飲食も咽を下らざるは軀に痛を覺ゆるが故にあら

ず只其靈に感覺を起すが故なりされば苦も悲も皆靈の働にて縦令ひ  
 幾分か躰にかゝはる所あるもろは只道具たるに過ぎざるなり又既に  
 前段に述べたる如く靈の凡ての働は未來に出で、彌多く益々敏きを加  
 ゆるとおれば靈のみの地獄の苦痛は少々なる此世に於て受くる肉躰  
 の苦痛の類にあらざる可し地獄の景況は此の肉眼を以て見るべき者  
 にあらざれを容易に知るを叶はざるも若し此世のをより推し及ぼし  
 て察するときは少しく其様子を窺ふに足るかと思はる先づ第一地獄  
 に入りて我等が交接する所の者供は誰ぞと問ふに人を苦むるを以て己  
 が樂しみとなす無數の惡魔なり之に次々に凡て此の世に在りて惡を  
 行罪を犯して神より罰せられたる惡人あるが是等も亦互に苦むるを  
 以て己が樂しとなすの徒なり此の無數の惡魔と惡人との外には只一  
 人の善靈あるをかし地獄は如此く惡魔と惡人の寄合場なれば素より  
 一点の親切も愛情も誠も義もあるべき筈も無く汚と罪とに充満て互

ひに怨らみ憎んで相苦しむるの外なかる可し若し今ま日本國中に一  
 人の善人なく皆惡人のみにて政府もなく法律もなく只互ひに相苦  
 しむるを以て樂みとする者のみにならしめたらば其有様は如何にな  
 り行く者ならんか迎ても想像の出來ざる程の難儀の世界となり果つ  
 べし今の世界は随分苦難の多き場所なれども未だ幾分か親子兄弟夫  
 婦朋友の親愛あるによりて幸福もあるものなるが地獄に於ては此事  
 全くおければ其難儀苦痛は又思ひやらる可し地獄の苦痛は只に外よ  
 り來る苦痛にみにあらざ各々の胸に内より燃出る良心の責苦も亦甚  
 だ大なる者ならん此良心は我等の靈に形み込まれし眞神の命令にし  
 て其働は善を勸め惡を止むるのみならず若し其勸に逆ふて止むる所  
 の惡事をなさば直に其罪を責めて甚我等を苦しむる者あり此の苦を名  
 て良心の罰とも云へり人の知らざる惡事をなして獨り自ら咎められ  
 心の中に堪へ難き苦痛を覺ゆる者は是れ即ち己が良心に罰せらるゝ

あり或人其朋友を殺して工に之を隠せし故に誰も知る者なかりしが  
 良心のみは之を知り常に責めなやまして暫時も止むをなきにより其  
 苦痛に堪へ兼ねて終に發狂人となり自ら朋友を殺したる事實を人々  
 に白状せりとかく良心の罰は時として甚だ力ある者なれども此世に  
 ある間は神に遠かりて心頑固あるにより此世のなぐさめと情慾の樂  
 とに覆はれて良心の責聲も最と微にして其苦痛を覺ゆるを數なれ  
 ども肉躰を離れて未來に至れば是れと異なり如何に神より遠からん  
 と欲するとも肉躰なければ神の御前を隠るゝ能はず如何に良心の責  
 聲を避んとするとも肉慾世界の樂なければ其責聲を覆者なく是れに  
 加ふるに死したる後には凡て己が生世の間に犯したる罪惡を悉く思  
 を出して一とつも忘るゝを能はざるにより良心の責聲は雷の轟くよ  
 りも尙強く其苦痛の滅へざる火にて燒るゝよりも遙かに愈れる者な  
 らん人を殺せし一とつの罪に由り其人を發狂人とかすは能ある良

心が全力を盡して我等を責むるに至らば其苦痛は如何あるべきか想  
 ひやるだもいと恐ろしき有様なりかく我等の知るゝ能ざる眞神より  
 受る所の直接の嚴罰と此良心の責聲並に惡魔と惡人の苦しめは此世  
 に在りて眞神に従はざる不信仰なる人々の必ず受くべき未來の惡報  
 なり然ども若し此道理を悟り前非を悔改めて地獄の刑罰を免れ神の  
 恵に預らんと思ふ者は余が次の段にて説解くるイエスキリストの十  
 字架を深く信玄て其教に預るべし

第三綱 救之部

○ 耶蘇之降生

前の段に於て説分けたるが如く凡ての人はみな罪を犯して眞神様に  
 負きたるに由り神に對してはみな逆叛の大罪人となれり夫故凡ての  
 人の死したる后にはみな神様より嚴罰を蒙り地獄に陥りて無限の苦  
 みを受く可き筈ありしに眞神様は甚だ憐み深き方故直きに吾々人

間を罰するをせず茲に是獨子なるイエスキリストを天より此世へ  
 降し遊ばされ凡ての人々が罪を悔改めて再び眞神様へ立歸る様に  
 救の道を開き給へり此救の道は即ち今余が説く所の耶蘇教なり此  
 イエスキリストの救の道を悟る前にイエスは如何なる御方にて又如  
 何あるを爲れたるやを尋ぬるは大切なる事なり前にも申せし如く  
 イエスキリストは吾々人間とは異なり眞神の只獨りの御子にして無  
 限の昔未だ天地の開けざる内より神と偕に天國に居ましたる智慧も  
 能力も限りなく其心至て正しく且つ恵に富める御方ありしが吾々人  
 類がみな罪を犯し將に地獄に陥りて大なる苦みを受けんとする有  
 様を天より臨み給ひ最と憐に思召し如何にもして此人類を罪の内よ  
 り救ひ出さんとして尊き天國の位を離れ天の父上に別れをなし自ら獨  
 り此世に降り給へりされども人間を救ふためには人間とならざる時  
 は不都合のかども多により千八百八十年程昔猶太の國にマリヤと申

す正しき女のヨセフと云へる夫に聘定けせしのみにて未だ婚姻を行  
 はざりし處女の胎内に宿り間も無くして此世に御誕生なされたりさ  
 れどマリヤの家は最と貧くして其夫ヨセフは大工の業をなすものに  
 てありし故イエスは稚き時より貧く暮らし素より學校杯に行き學問  
 をなされたるともなく多分ヨセフの業を學んで自らも大工の業をな  
 されたるをならん且つ又イエスは三十才に至る迄では御自身は神の  
 御子にして世を救ふた先に天より降らせ給ふたる救主あるを人に  
 知らせず他の人々と少しも異なるををなし給はざりしに由り世の人  
 々はたゞイエスをマリヤの子とのみ思ひ神の御子にして世の救主た  
 るを夢にだも知らざりし位なりイエスは三十歳の頃より始めて凡て  
 の人々に向ひ吾れは天地の主なる眞神の獨子にて多くの罪人を救は  
 ん爲めに天より降りし世の救主ありと仰せられ是より東西南北に奔  
 走し至る所衆人を集めて救の道を説き或る時は病を癒し盲の眼を明

け跋を癒し死人を蘇らす等の奇跡を呈はして伊自身神の子たるの  
 証據となし給ふに由り其の頃の人々にてイエスを信するものも數多  
 出で來れり然るにこのころパリサイ宗とサドカイ宗とナして甚だ盛  
 なる二つの宗旨ありしが此の宗旨の人々がイエスを惡み其教を嫌ふ  
 と今佛法の僧侶また神道の神官等が耶蘇の眞教を憎み嫌ふよりも甚  
 だしく遂に猜みし心を起し諸般の手段を設けイエスを捕へ種々ふる  
 無實の罪を負はせ政府に訴へ十字架とナす磔の刑を以てイエスキリ  
 ストを殺したり此時イエスは三十三才なりしに由り道を説き始め給  
 へしより僅かに九二年程なり然れどもイエスは尋常人間と異なる神の  
 子なりし故死して久く墓所に留らざ十字架にかゝりし日より三日  
 目に至り再び蘇りて墓場を出で度々弟子等に顯はれて種々と救の  
 道を教へ給へり斯して四十日程経たる後はや救の事を全く畢へ給ひ  
 しに由り此世を去りて再び天國に歸りもとの尊き位に座はり神と共

に其所に居まして己れを信する凡ての信者を守り且つ其救の道を廣  
 むるものを助け給ふによりキリストの死后救の道は段々世界の國々  
 に廣まり此教に敵するものは必ず敗れ逆ふものはみち亡びて千八百  
 八十年を経たる今日に於ては耶蘇の教は普く世界の國々に弘まりた  
 り斯く年を経る程キリストの教が愈盛んに行はるゝは全く神の子  
 たるイエスキリストが今にも天に居まして其進歩を助け給ふが故なり

◎ 十字架之贖罪

イエスキリストが惡人の手にかゝりて十字架の上にて死し給ひしを  
 聞き甚だ怪しみイエスは眞神の獨子にて智慧も能力も限りなき御方  
 と聞きしに何故阿容々々として惡人共の手に渡り十字架の上にて最も  
 苦しき刑罰を受け給ひしや盲者の眼を明け癩病を癒し死人を甦らす  
 程の力を持ち乍ら惡人共の手を遁れて御自分の身を救ふ給ふの力は  
 なかりしや眞神の獨子であり乍ら斯くも淺間敷き死様あるは甚だ合

点の行かぬ事ありと此尋ねは最も千万なるものにて而かもキリスト  
 教の大眼目に付ての間おれば此より精しく十字架の譯柄に付て答を  
 なす可し抑もイエスキリストが十字架にかゝりて死なれたるは力及  
 ばず術盡きて已むを得ざるの故にあらすキリストが自ら甘じて受け  
 給ふし苦痛なりもどよりキリストは智慧も能力も限りなき御方なれ  
 ば自ら悪人の手を遁れて十字架の死を避けんと思ひ給はいたとへ千  
 万人の悪人共が彼を捕へて殺さんと欲するとも容易く其手を遁れて  
 御自分の御身を安全に保ち給ふの力ありしならん然れどもイエスの  
 此世に降り給ひしは即ち此の十字架に架らんがためあり耶蘇は之れ  
 がために人間と生れて肉體を具へ給へり又此キリストの十字架は救  
 の道の眼目なれば此十字架に由らずして世に救を蒙むるものは一人  
 もなかる可し救の道はキリストの十字架にあり十字架は即ち救の道  
 なりと言ふも可なり夫故キリスト教の信者に取りては世間の人々の

賤める所のイエスキリストの磔程尊きものは無し前にも己にせし  
 如く吾等人類はみち罪を犯したるにより神に對しては叛逆の大罪人  
 たれば死したる后には神の嚴罰を蒙り地獄に陥りて無限の苦を受く  
 可き筈なりしがイエスキリストは甚だ憐みに富み給ふ御方なるゆゑ  
 我儕をして其無限なきの苦みに陥らざるを見るに忍びず如何にもし  
 て其苦より我儕を救ひ出さんと思ひ給へば神は正しき御方故其律法  
 に負きたる罪人の罪は露はども罰せせしては宥るし給はず必ず相當  
 の罰を各の上に降し給ふべきに因り我儕罪人の罪と問はずして地獄  
 の苦より赦るし給ふは神に於てもあし難き事なる故イエスは天父  
 の許しを受け此世に降り我儕罪人の身代に立て凡ての罪を御自分の  
 御身に引受け十字架の上にて其贖をなし給へり此身代に由りてイエ  
 スは世の初より世の畢まで此世界に生るゝ凡ての人間の罪を贖ひ給  
 へりこの十字架の贖あるによりイエスの教を聞きて是を信じ罪を改



悔めて其道に従ふものは縦令は是迄幾千万の罪を犯したりとも眞神は悉く其罪を赦し給ふて淨自身の子供となし何時死するとも其人を地獄に落さず反て天國に呼び上げせて限なきの幸福を受けさせ給ふなりさて贖とやすとは償ふと云ふ義に同じ者にて例へば茲に一万圓の借財をなし之を返却するの道なきに由り貸主の爲めに裁判所へ訴へられ已でに終身懲役の刑に處せらる可きの罪ありしが其朋友の内へ甚だ慈深き者ありて如何にも氣の毒に思を何とかして此人を救ひ出さんと思へども他に施すべきの術なきに由り家に歸り田畝家屋を悉く賣拂を一万圓の金策をなし之れを以て貸主の方へ納め償ふたるに由り將に裁判所に引かれて終身懲役の苦に陥んとしたりし朋友を救ひ出して再び安心の身となすとを得たり之れ即ち贖ふり我儕人間が犯す罪の凡ての罪はみま眞神様に對する借財の如き者なり已に犯せし後には如何なる小罪を雖も人間の力を以て之を取消すと能は

ざれば生涯の間に我儕が犯す凡ての罪は皆神様の前に積み重さなれる取消し難きの借財となれり死したる後は神の裁判所に引かれ地獄に逐ひ落されて終身限なく其所を出づると能はざるなり然るにキリストは田畝家屋の代金にあかず尊き御身を十字架の上に棄てられ我儕が負る凡ての罪の借財を眞神に皆悉く償ひ給ふたるに由り此御恩を深く感じて其教へを守るものは神の裁判所に引かるとも亦地獄の苦をも免かるゝなり斯の如くキリストが我儕の罪の身代に立て此大なる苦を甘んじて受け給ひしは前にも已に申せし如く甚だ愛情の深き御方故我儕人間を愛し給ふとは恩愛の深き母親が其乳飲子を愛するよりも甚く優れる所あるを以てなり世に母親の愛程深きものは無し誰れか眞の母親にして其乳飲子が病に罹り劇しき苦痛を受くるを見て堪ぬ難きの情を起し若し成る事ならば己れの身に其病を引受け子供に代はりて其苦痛を忍び我子を安然に安ませんと思はざるも

のあらんや之れ我子の苦を見るの苦よりも吾れ自ら其病に罹りて其苦痛を受くるを反て易しと思ふが故なり故に世の人親の恩愛の深きを海の深さに比べたり然れども海の深きも亦限あると同しく親の恩愛にも亦限ある事ならんがキリストの恩愛は之れより愈り人間の力を以ては其底を測る可からざる限りなきものなりさて母親の恩愛すら其子の苦を我身に取りて代りなき程の思ひを起すものなれば況してキリストは吾々をして地獄に陥れ限りなきの苦痛を受けさせるに思ひ給はず吾々が苦痛を受くるを見給ふの苦よりも自ら其苦痛を自身に引受け給ふ事遙かに優れりと思召され遂に天より降りて言語に盡し難きの十字架の苦みを甘んじ給へりされば斯くの如き廣大無變なるキリストの恩愛を被ひりたる吾々罪人は己れの罪を悔改め十字架の贖を信じ乳飲子が其母親に頼むが如きの思ひを以てキリストに頼り奉り此身の罪を清光靈の救を被ひる事を力む可きなり

◎贖之比喩

或人間ふてキリストはたゞ獨りの方なるに如何で一身の苦を以て世の始より世の終迄此世界に生れ出づる天下万民の身代となり給ふの力あるやと此れも亦た甚だ最もなる尋なれども少しくキリストの位と我々人間の位とに高下のある事を考へなば其疑も亦た自ら氷解す可し若しキリストがたゞ尋常一般の人間にてありしならばもどより一身の苦を以て萬民の身代とあること叶はざれどもキリストは眞神の獨子にて最も尊き天國の位に坐し給ふ方なれば其十字架の苦は我々賤しき人類の罪を悉く贖ひ盡くして尙ほ餘りあるなり今このキリストの一身を以て凡て人類の罪を贖ひ給ふたるの道理を説き明さんために一つの譬話を設く可し去る國に大なる叛逆起り一州の人民みな舉りて王に叛きたりしが國王此ことを聞き大に怒り直ちに大軍を起し其子を以て大將軍と定め不日に叛逆人等を征

伐せんとふれさせたり時に國王の太子は甚だ愛深き世に稀れなる仁者ありしが獨り私かに思ふ様今更此大軍を以て彼の叛逆人等を攻めなば彼等を打滅す事は最も易き術なれども其内には婦人小兒の輩ありまた若し罪を悔い志を改むるとあらば吾父の良民とある可きものもあらんに今更無慚にも彼等を悉く打滅さんば吾が心に甚だ忍びざる所なりなりとて已に叛逆の旗を擧げて王に負さし逆徒おれを其儘にして棄て置くときは王の政事はより廢り恐らくは他州の人民も亦同じ叛逆の輩とあらんも計り難しとすれば一州のために小仁を施して全國の祿害を惹起すに至らんと仁義の間に挟まれて如何ともする能はざるに由りひとつの妙案を思ひ付き直ちに國王の前に至りて申す様彼の一州の人民はみな叛逆の輩なれば悉く打滅すは王の義政を顯はす可けれと彼の州中には婦人小兒の輩もありまたよく説諭を盡さば君の良民となる可きものもあらんに今悉く之れを打ち滅すは如

何にも無慚なる行と思ふ故色々工夫を廻らして彼等を救はんと欲すれども別に良法も無かりしが今漸く一の妙案を得たるに由り願くは父の許しを取って此事を行はんと國王も固より明君のことあれば喜んで其謀を問ひしに太子答へてす度某此度は大軍を率ゐずたゞ一人彼の郡に至て多くの逆徒等に説諭を加へたる後かの逆徒等の身代に立て三年の間獄中に繋がれ後に逆徒等の前にて數百の鞭を受け彼等の罪を贖ふて若し今より志を翻して吾れに従ふものあらば王に願ふて吾が身代により叛罪の赦免を得させ長く國王の良民となし安全にして此國に住はせん然れども若し尙ほ頑愚にして吾れに隨てざるものあらば其時は己むを得ず悉く縛取りて死刑に行ふ可しと彼等に告げん然るときは志ある者共は必らず歸順して君の良民とある可し若し之程までにして隨はざるものあれば其時捕へて打亡はすとも決して遅きにあらざるべしかく行ふときは父上の仁政義罰兩ら至ふし

て太に國家の幸福とやらん國王甚だ喜びて直ちに其乞を許しければ太子は獨り自ら叛逆の州中に降り種々様々に説諭をなして遂に自ら甘んじて獄中に繋かれ不潔なる部屋に寝起し粗末なる食物を食ひ奴隸の如く使役せられて三年の間非常なる艱苦を嘗めたる後に再び牢屋を出で逆徒等の前にて數百度の鞭を受け全身血泣に塗れ紅の手を廣げて衆徒に向ひ吾れは是れ一天万乘の君として億兆の人民が崇め事ふる國王の太子あるに今此の耻辱と苦痛を汝等の前にて受けたるは吾父上の深き思召に由り汝等罪人共を悉く亡すに忍び給はず我れを送りて汝等が身代に立て此苦を受けさせ給へるありさすれば彼れ自ら汝等逆徒凡ての罪の罰を此身一つに引受て贖ふたるにより汝等若し前非を悔い志を翻がへして我れに従ふときと汝等が罪を悉く赦して再び我父の良民となし長く君恩に預からしめんと説き諭しかば逆徒の中にて少しく志ある徒はみな國王の仁恵と太子の恩愛に感

直ちに前非を悔いて彼に皈順するの意を申出でたるに由り彼等は悉く救を蒙りて長く其國に安居するを得たり然ども頑愚にして隨はざりし者共は悉く縛取られてみち死刑に處せられたりと斯く太子の一人おれども國王の子たる尊き位あるを以て一州人民の罪を贖ふとを得たり今イエスキリストは天地万物の主なる王の王君の君たる眞神の獨子に在まし乍ら自ら此世に降り三十年間獄屋に等き人間の體内に宿り神に負さし人類の内に暮らし千種万別なる艱難辛苦を経給ひし後遂に十字架の苦と辱を受け給ふたる其功により凡て彼れを信じて其命に従ふものは天の父上に乞ふて凡ての罪の赦を得させ長く天國の良民とかし限りなきの幸福を得させ給ふの力あるなりされど若し頑固にして此救主の命に従はず罪を犯すとを止めざるものは已むを得ず死後に至りて悉く縛り取れ地獄の限り無き刑罰を與へ給ふ事なれば讀むものよく已れを願みて此救に預かるとを力む可し

◎ 信仰之事

イエスキリストは已に十字架の上にて世の初より世の終に至る迄凡て此世に生れ来る人類の罪をみあ悉く贖ひ給ふて大に救の門を開き給へど現に其救を興り罪の赦を受けて天國の幸福に入る者は唯キリストを信する者に限れるなり之を信せぬものには十字架の贖も其益をおささる反て不信仰の咎により其の罪を重くするの憂あるのみさればキリストの救に興ると興らざるとは各自の信不信に由ることなれば信仰ころは救の門の鑑札なりと云ふて可なりさて信仰と申すとは未だ見ざる處のこを誠實とし望む處を疑はざるの意にして已に見る處のこを誠とするは信仰と云ふべからず例は今朋友の許より今夕晩飯を呈したき故御來車下され度しと申し来るに委細承知必ず參堂仕るべしとの返書を送るはこれ全く信仰の酬にして未だ見ざる所を誠とし望む處を疑はざるに由てなり何となれば朋友の宅に於て馳走

の仕度あるは未だ見ざる所あるに儘に晩飯あるを誠とするは朋友の言葉を信するにあらざや又未だ其席に連らざるに其處に至れば必ず馳走に興ると思ふて樂み待つは朋友の言葉を信じて望む所を疑はざるの意にあらざや故に晩飯の馳走に付ての信仰は全く其朋友の詐をくして誠を告ぐるの義人たるを疑はざるに基くなり斯の如く救に興るの信仰も未だ見ざる所を誠とし望む處を疑はざるの事なりイエスキリストが天より降り十字架に架りて罪の贖をおし賜しとは我肉眼を以て見ざりし所おれども之を信じて其救主に依頼み死したる後天國に永遠の幸福あるを樂み望んで疑はざるを救の道を信仰するとすあり是等のことばみな聖書に録されたるものあるが其聖書はイエスキリストの謬言葉を載せたる書なれば救を得るの信仰はイエスキリストの神の子なるを疑ひ十字架の贖に我等を救ふの力あるを

信せざるるときはこれキリストを疑ふの不信仰にして救の道に與かる  
 と能はざるなり然れども右に述べたる處は智慧の上より來るの信仰に  
 して之に加ゆるに心の信仰を以てせざれば眞の救を蒙むるも能はざ  
 るなり心の信仰とは己れの身を全くキリストに任かし奉ることなり  
 縱令キリストの神の子あるを知らず其贖の力あるを悟るも若し  
 己の身を此救主に任せざれば其の信する處皆悉く無益に屬して不信  
 仰なる徒と少しも異なる所なし譬は船中に出火あり此船將に燃へ沈  
 まんとするに當り人々周章て助の船を求むるときに向の方より警察  
 の印を立たる一艘の早船來るを見て直ちに之を助の船なりと認め若  
 し之に飛び乗るときは必ず安然にして陸地に達するを得べしと悟  
 るはこれ即ち其船の偽ならず且つ己を救ふの力ありと信する智慧の  
 上の信仰あり去り乍ら唯此智慧の上の信仰のみに止まり手早く蒸氣  
 船より助の船に飛び移るをせざるるときは助の船の來るを見つゝ己

の生命を失ふべし此の手早く蒸氣船より助の小舟に乘移りて其身を  
 小舟の船頭に任するとは之れ即ち心の信仰ありさればイエスキリス  
 トの眞の救主なるを知るのみにて其の身をキリストに任せざるは  
 助の船に來るを見乍ら炎の中に焼死する愚者と同様也故にキリスト  
 の救の眞理にして疑ふ可からざる救の道たるを悟るときは直に罪  
 を悔改め如何なる妨げものありと雖ども之に勝得て早く一身をキリ  
 ストの傍手に任せ奉りて我靈の救を全ふすべしキリストに任するど  
 はキリストの命令を悉く守りて決して其意に負かざるをあり如何な  
 るとにてもキリストの傍手に逆ふとは悉く之をやめ棄るの意ありか  
 の助の小舟に飛乗りたる後は只其船頭の意に任し敢て我儘を言ざる  
 如く我儕もキリストに従ふ上は己の我意を全く棄てて聖書に録され  
 たるキリストの教を守るべきなり然れども我儕は罪深く力弱くして  
 正きキリストの律法に隨ふとの出來ざるもの故神はキリストに身を

任する眞の信者に約束して聖霊とす者を各に與へんと宣へり聖霊は凡て眞の救に與りたる信徒の上には智愚貴賤の差別なく皆同じく給はる所の神の靈あり此聖霊を受くるときは弱き者は強くあり汚れたる者は潔くなり罪に勝ち欲を制し平安と喜樂とに満て此世を安全に渡るとを得るなりされば聖霊を受くるは其の信仰の度に因るものなれば信仰愈厚人には聖霊愈多く降り給ふて大に其人の幸福を増す可し之により縦令困難多き浮世に住も信者は常に喜を失はざるものあり

④ 天國之事

天國と申す所を我儕の肉眼を以て見る可き所にあらざれどもこれ即ち眞神の在す所にして凡て義き人の靈の集る場所あり此天國は此世に在りてキリストの教を信じ十字架の救を蒙りたる人々が死したる後に歸る所の最幸福なる國なりキリストは我儕をして此天國に入

しめんため御自身には彼の大なる苦を甘んじ給へりもどより天國は靈魂の幸福を受くる場所あれば其有様を言や筆にて呈はすは到底なし難きをなれども聖書の内教へられたる例への言葉を用ゆるときは凡て此國に入る者は再び死するをなく限りなき間其所に暮らして神と共に樂むを得るなりと秦の始皇は肉體の死を避けんが爲めに不老不死の薬を求めたれども素より此世界には如此き薬のあるべき道理なければ遂に其志を達せずして死せりされど我儕が天國に至るときは求めずして不老不死の幸福を神より賜るものなり又此世界にありて大に人々を苦しむるものは寒暑疾病なるが天國に於ては寒暑の憂なく又疾病の恐れもなく長への春に盡させぬ花の香はれる内に住むものなり茲には一の惡人なく又一の惡魔も居らず罪なく咎なく愛苦慟悲の禍なく愛と實の交りに由りて兄弟共に相樂むを得る所あり眞神なる天父は其恩愛を以て我儕を慰めキリストも其所に在し

て御自身と同様の榮と位を與へて我儕の心を喜ばしめ給ふなり其外  
 何處なるものありて我儕の喜びを増し樂を加ゆるかは今より預め知  
 るを能はざれども無限の幸福あるはたゞ此天國の外なきなり或る人  
 問ふて曰く已に死したる後にて靈のみにあるときは此世にありし時  
 親子兄弟夫婦朋友の關係ありしを覺て互に認むるとを得るやと已  
 に前にも述べたる如く未來に於ては凡て此の世にてなしたるを一  
 つも残らず思ひ出すの力を得るにより親子兄弟夫婦朋友の關係あり  
 しとは決して忘る可きものにあらざ此世に在りし時より尙ほ一層親  
 密なる交りをなして樂むとを得べし蟬も尙ほ切蛆(ちく)地中にあるときの  
 名(な)の容にて地中にある間は僅に四五寸程の間を通くにも數十分の暇  
 を費やす昆虫なるが一度び羽衣(は)奇麗(きれい)ある羽ある蟬(せみ)と變ずるときは空  
 中に飛び上り大なる聲を出して鳴(な)亘(わた)り枝より枝に飛移りて小鳥に齊  
 しき愉快なる樂をなすものなり我儕人間が此世に居るは蟬に取

の切(き)蟬(せみ)時代と云ふ可きか僅(わずか)二三十里の朋友に遇(あ)はれ度(た)く思ふも數(す)日間  
 の暇(ひま)を得ざれば其志(そのこころざし)を果(は)す能はず實(じつ)ふ不都合(ふごう)極(き)まる生涯(しやうがい)かれども一  
 度(た)び此(こ)肉(にく)躰(たい)を抜(ぬ)けて靈(たま)のみになるときは之(こ)れ即(す)ち人間(にんげん)の羽衣(は)時代(じ)に  
 して廣(ひろ)き宇宙(うちう)を拂(は)きしと許(ゆる)りに天地(てんち)の間(ま)を横(よこ)行(かう)するの力(ちから)を得れば其  
 樂(たの)みも亦(また)隨(したが)つて大(おほ)なる可(べ)し此(こ)世(よ)は實(じつ)に露(つゆ)間(ま)の生命(いのち)五十餘(よそ)年の生涯(しやうがい)にて  
 恰(あた)か道(みち)中の如(ごと)きものならん今(いま)御(ご)互(たがひ)に東京(とうきやう)見(けん)物(ぶつ)に出(で)掛(か)け東(とう)海(かい)道(だう)を通(と)る  
 時(とき)には所(ところ)々(ざ)方(かた)々(ざ)の名(な)所(ところ)々(ざ)々(ざ)を見(けん)物(ぶつ)杯(ばい)して愉快(ゆかい)な事(こと)も多(おほ)くあれども何  
 分(ぶん)道(みち)中の事(こと)故(ゆゑ)とかく不自由(ふじゆう)勝(か)つて暑(あつ)寒(ふせ)の難(が)儀(ぎ)を堪(た)へ雨(あめ)風(かぜ)山(やま)川(がは)の艱(が)苦(く)  
 をあめて百(ひゃく)有(ゆう)餘(じゆ)里(り)は旅(たび)路(ぢ)を行(い)くは隨(したが)分(ぶん)苦(く)しき行(い)きあはるに之(こ)れをも忍(しの)ん  
 で愉快(ゆかい)と思(おも)ふは花(はな)の都(みやこ)の東京(とうきやう)市(し)街(が)を見(けん)物(ぶつ)せんと樂(たの)みあるが故(ゆゑ)なら  
 ぬや之(こ)れ同(おな)く基(き)督(とく)教(きやう)の信(しん)者(じや)等(ら)が艱(が)難(が)多(おほ)く浪(なみ)風(かぜ)荒(あ)き浮(う)世(よ)を渡(わた)るお艱(が)苦(く)  
 苦(く)を恐(おそ)れず難(が)義(ぎ)を憂(うれ)へず悦(よろこ)び勇(いさ)んで月(つき)日(ひ)を送(おく)るは旅(たび)路(ぢ)の終(まは)りに幸(さい)福(ふく)多  
 き天(てん)國(こく)の都(みやこ)に入(い)りて永(なが)遠(えん)の樂(たの)みを受(う)くるの望(のぞ)みあるが故(ゆゑ)なり世(よ)の中(なか)にて



來世の樂みあると知らずたゞ此世の樂みのみを食する人は恰も東海道に旅行する旅人が其目的の東京あるを知らずたゞ道中の樂みのみを旨として僅かの間に凡ての旅費を使ひ尽し東京市街へ達して後の艱苦を思はぬ愚人に似たりされば此理を悟りて此世渡を道中なりと思ふものは可成勤めて來世の幸福を受くるの用意をなして待つ可きなり其用意は外ならずたゞ耶蘇キリストを信じて全く其教に隨ふとなり

基督教三綱領終

明治廿七年十一月四日印刷  
明治廿七年十一月十五日發行

(東京傳導會布教部の  
依頼により出版)

發行者

栗本長質

東京京橋區築地二丁目十五番地

印刷者

大場沃美

東京神田區柳原河岸第十一號地

印刷所

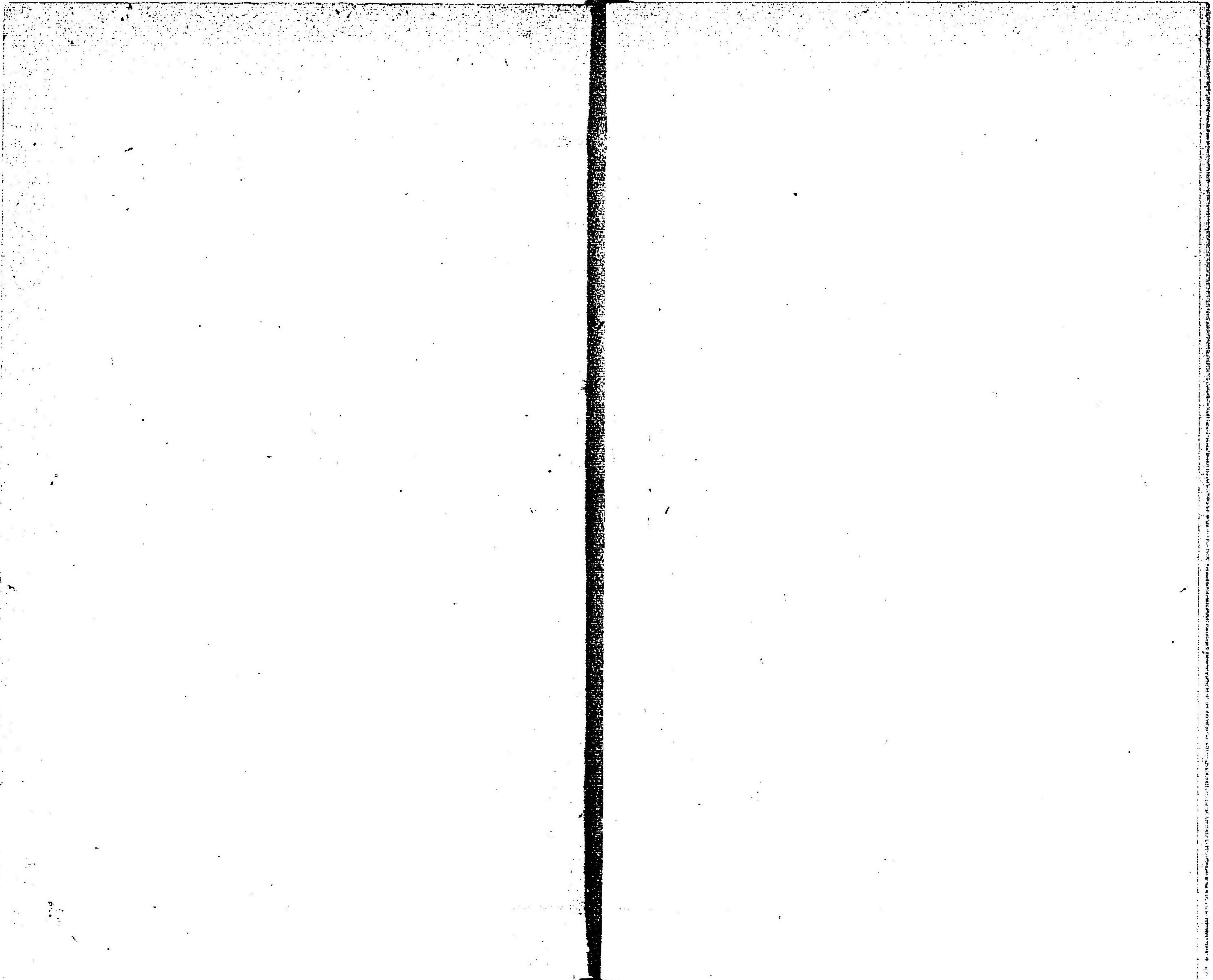
龍雲堂

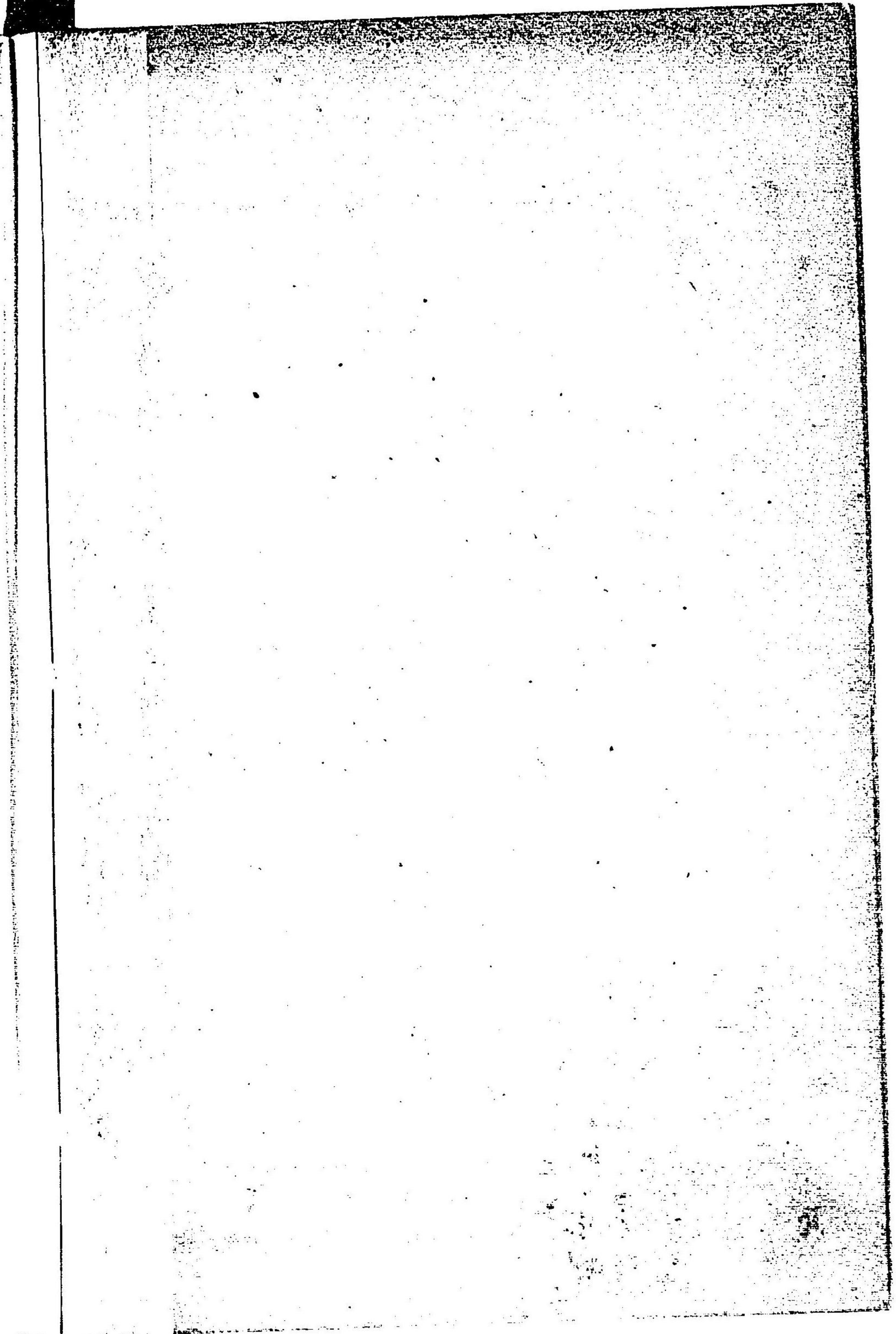
東京神田區柳原河岸第十一號地

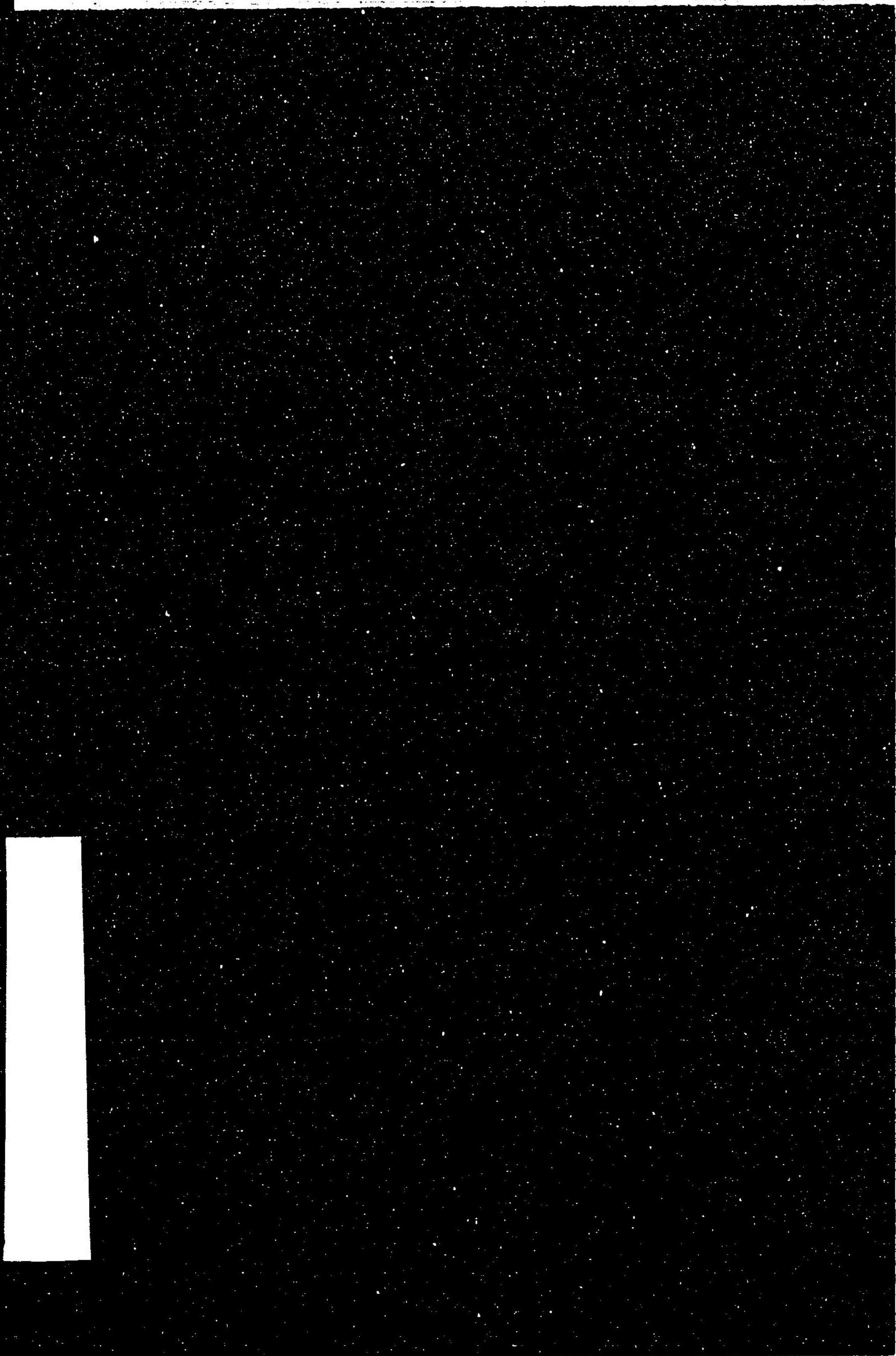
發兌元

一 二 三 館

東京京橋區築地二丁目十五番地







特 46  
949

基督教三綱領

国立国会図書館

020446-000-0

特46-949

基督教三綱領

M27

ABI-0256

